

令和7年度 幼児教育研修（年齢別担任研修3歳児・第2回）
「子どもの発達と保育者の関わりについて」
～3歳児の遊びの世界をともに楽しむ～
日時：令和7年7月18日（金）15：00～17：00
会場：足立区役所 庁舎ホール
講師：東洋英和女学院大学 教授 塩崎 美穂 氏



事例からの学び ～グループワーク～

エピソードの共有！

子どもの姿

いろいろな道具を組み合わせたり、使い方を工夫したりして水遊びを楽しんでいる。Rは水道の蛇口に樋をつなげて水を流して遊んでいる。近くにあったもうひとつの樋を運び、長くつなげて水を流そうとしていた。重ね方や角度を変えたりと、色々試していた。

姿から読み取れること

- ・保育者から教えてもらって試すより、自分で発見して試すことの方が面白さを感じている。
- ・できた！成功した！という嬉しい気持ちを感じる。

保育者の関わり

子どもが自分で発見して試すことの面白さを感じているという思いから、距離間を大切にしたり関わり（目線で返すなど）や援助を保っている。

子ども自身がチャレンジできなかった時はどうしてる？

「子ども主体の保育」ができない、できなかったと感じた場面

「子どもが自分で発見して試す保育」や「子ども自身が試し、悩み、その上で達成感や効能感、嬉しい気持ちを感じる保育」ではないなと感じたエピソードについて話し合いました。

<色水遊びでの場面>

女兒がケチャップの容器に水を入れている。
朝顔で色水を作ろうと、花を入れて振ってみたが色がつかない。
子「むらさきにならない・・・」
保「揉んでみたら」
と、ひと言言ってしまった。
自分で見つけてもらえばよかった。
虫探しでも同様で、「ここにいるよ」と、虫がいる場所を言うてしまうことがある。

何をすると探求心につながるのか、引き出すものがあると良い（講師より）

3歳児の探求・探索とは・・・

挑戦（チャレンジ）する基盤として・・・

- ・自分を信じる **自己信頼**・・・自分を大切に、適切にコントロールする
 - ・自尊心・自己理解
 - ・意欲・自己効力感
 - ・自制心・自立心/自立心
- ・他人を信じる **他者信頼**・・・他者の世界を感じ、人との関係をつくり維持する
 - ・心の理解
 - ・コミュニケーション
 - ・共感性・思いやり
 - ・協調性・道徳性/規範意識

愛されていると感じている
子どもは「イヤ」といえる

興味関心につながる

保育者における過剰な「保護」

ある程度は必要だが、保育者による過剰な「保護」が、子どもを自分で思考できない状態にとどめてしまうことがある。人間形成を促す意図とは逆の結果をもたらしてしまう。

子どもの自由な思考を励ます育ちへの道筋が疎外されてしまうことがある。

ポイント

それらは・・・

- ・安心があってこそ チャレンジできる
- ・任されてこそ チャレンジできる
- ・「受け手」ではなく、「つくり手」になってからはじめて人は考える

エピソードの共有2

子どもの姿

ソフトブロックを使って遊ぶ。「赤がほしい」「小さいのって」など、自分の欲しい形や色を伝える。作りたいものを作って遊んでいるが、友達の遊びにも興味をもち、高く積み上げる遊びを始める。「いいね」「高くなったね」など、楽しい気持ちを言葉にして遊ぶ。崩れては建て直す遊びを繰り返した後、「片付けようぜ」の声掛けに、みんなで片付けていく。

姿から読み取れること

- ・色形を組み合わせて遊びに使いたいものを形にしている。
- ・使いたい色や形、大きさなど言葉にして伝えている。
- ・友達の遊びに興味をもち、一つの遊びへとつながる。

保育者の関わり

子どもが作り上げていく姿を見守る。高く積み上げられた時の嬉しい気持ちに共感し、言葉にして伝えていく。イメージの広がり、イメージの共有をして数人で遊べたと感じた。

なぜイメージの共有をしてほしいと願う？

子ども同士がイメージの共有をして楽しんでいた場面について話しました

<お家を作ろう>

ピタゴラスで遊ぶ女の子グループと井型ブロックで遊ぶ男の子グループ。お互いの遊びが気になった子同士が「何作ってるの?」と聞き合い女の子「お家作ってるの」男の子「ダダンダン作ってるの」と、やり取りの後、それぞれ遊んでいたことが合体して一つの遊びになった。イメージの共有があったのかな…と思った場面だった。

なぜ同じものを共有しようと思うのか。他人がした経験を共有できるのは人間だけ。その中で子どもたちは何を選びとるのか…。イメージを共有することの意味や同じことをすることにはどういう価値があるのか。

教えられる受動的な教えから、子どもたちが自ら学びに向かう能動的な学び(学び手)が中心となるように、指導者ではなく、支援者に。学び手は様々な価値(好奇心・共感力・自信・思考力・表現力など)を獲得していく。(講師より)

信頼の基盤があってこそ

周囲の大人の関わりが信頼の基盤となり、子どもの自発的な遊びの中で友達との関係も育まれていく。時間をかけながら安定した関わりを形成することが探索(チャレンジ)の意欲にもつながる。

研修生の報告書より

今子どもがやりたいことは何なのか、それを実現することはできるのか、研修を受けたことで保育を振り返るきっかけとなった。また、もっと子どもが見つけた発見や遊びを繋げて一緒に保育を楽しみたいと思った。子どもに任せて何もしないということではなく、子どもとこんな遊びしてみたいな、こんな物を用意したら、どんな遊びが始まるのだろうか、私も一緒に楽しみたい気持ちをもってこれからも子どもと関わりたい。

子どもに成功体験を増やしてほしいという気持ちから、善意で多くのことをやってあげようとしたことがある。保育者に教えてもらったりやってもらったりして試すよりも、子ども自身で発見し試すことの方が面白さを感じることを学び、子どもが自分達で考えて行動できるような環境を整えるべきだと気付いた。